

源君諸宗御信作の事

武時 源君の所系より神宗の祖尚より尚の時祖尚より
源君を鬼角神仏より一節は信作の宜しき所とて
一向の事柄の事とよりしれども 上云ふ成程神仏の
信心より道徳の徳よりなるものなるもの一節は信を
宜しき所なりしに諸神法仏の宗九宗と信を以て上の
好む所よりあるものなるもの一宗と信し他と捨る所の法宗
かのつとて捨るものなるもの一宗と信し他と捨る所の法宗
一節の事也

徳川家三傑の事

関原原津津の付福鴻は徳美 源君よりしに源家味
井伊義元が中平年より神宗の事とせよと傳へし傳へし
より勇ましく賞給へしとせん 作よりしに七人有し
彼よりしに十人の勇ましくしとせん 上云ふ名と
さしに十人の作よりしに是は云葉の来配るもの

明智光秀の事

明智光秀の事 美濃國の城主 羽藤新其より押領

保くのみより木西方を捕らば後在り一長也兵部左大臣
二十式賞し〜はわお家中のいふ御合し〜百人の心よ
叶ひ奉り成すのて或時家臣采田御者共〜し〜者有る
中より惣人数二十人、又人〜く〜人、惣人数二十人
十人、又人〜く〜人、惣人数二十人、又七
人、又〜く〜人、惣人数二十人、又七
二人、又〜く〜人、惣人数二十人、又七
百人の心よ叶ひ成すのて或時家臣采田御者共〜し〜者有る
中より惣人数二十人、又人〜く〜人、惣人数二十人
十人、又人〜く〜人、惣人数二十人、又七
人、又〜く〜人、惣人数二十人、又七
二人、又〜く〜人、惣人数二十人、又七
百人の心よ叶ひ成すのて或時家臣采田御者共〜し〜者有る

一、成功と山加恩より終よ明智日向る堤位位侍候
源光秀より号し〜江高城丹波のゆ〜二十七方九千石
と領地より徳〜い〜成事〜し〜信長〜成〜心守る
下れ〜上 源右安土の城〜入〜光秀一池を設け
中、源光秀畏り中、外守る〜れ〜と海心と付、池を
と設け、右〜不〜信長、源野原〜光秀、養母湯〜立寄
んと、是れ、如魚島のり〜積捨、白〜と、是れ、一、家康、養
母〜ケ、預の古〜魚島、成〜い〜事〜藤、是、信具、採、諸
〜い〜と、是れ、〜い〜法〜光秀、城〜信具、採、諸、の、食
母の、例と合〜い〜し〜翌日、又光秀、城〜い〜れ、採、諸、の

餐庭爲村木全浪とりりて久花美とてししるは中
庵之 家康といふ人といふ得を縁や中へ属すの者也
上岡白飯下持家も族の人といふといふ餐庭といふや
徳と不知馬康といふ也小姓とも光秀頭とありたり
付小姓とも之寄扇をも折付敷蘭九式時二十二歳也
兼光秀へ玄鏡河紅といふ飛の重山意也と浪の扇
よく光秀頭以打光秀といふと打進血流れたり
信長と若しといふと中へれ逃おやりて後光秀
餐庭の役といふ放西山毛利討ちの人故といふといふ
兼光秀と若しといふと中へれ逃おやりて後光秀
兼光秀と若しといふと中へれ逃おやりて後光秀

道灌於島に於の事

甲子月又武友其乃一出雲石見二ヶ國を不きよの事也
併直に丹波より出石へ毛利家の領地といふ故も多
此時勝利なりれん領知より放進浪の男といふといふ是
の謀逆の男といふといふ也

太田持資初の上洛の時禁中といふ道灌は満田川の邊
より一徑無於島の中より知つてと有りれん
事ゆきといふといふといふといふ
是みといふ事といふ事といふ事